

神山っ子の力（学力と学習・生活）

令和7年度全国学力・学習状況調査結果より

2025年4月17日 6年生実施



国語

◎良好な点

- ・自分の目的や意図に応じて、インタビューの進め方を考える力がついています。
実際にインタビューをする前に、何を知りたいのか目的を明確にし、自分が聞こうとする意図に応じて相手から具体的な内容を引き出すことができる質問となっているかを検討する学習の成果が表れています。
- ・小学校で学習した漢字を正しく書くことができます。
- ・「かわや・便所・トイレ」のように、時間の経過による言葉の変化や世代の言葉の違いに気付くことができます。

▲課題として

- ・目的や意図に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を集めること、集めた情報を入れるといった条件を満たして表現することに課題があります。
説明文の学習において、筆者がどのような事実や理由を事例として挙げているかを読み取るために、大切な言葉に着目したり、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめたりする学習をより丁寧に行っています。小学校6年間で身につける「読む力」の系統性や単元を通して身につける力を意識した授業づくりを行っています。

算数

◎良好な点

- ・棒グラフや帯グラフから必要な数値や項目間の関係を読み取る力がついています。
タブレットを活用することで、グラフ資料が見やすくなりました。グラフを拡大したり重ねて比較したり、グラフから読み取ったことを説明したりする学習の成果が表れています。
- ・図形の角の大きさや辺の長さについて理解しています。
正方形・長方形・台形・平行四辺形・ひし形など、特別な四角形の定義とその性質について、既習の図形と関連付けて学習を展開しています。学びの連続を意識した学習の成果が表れています。

▲課題として

- ・必要な数量を見だし、求め方や考え方を式や言葉を用いて記述することに課題があります。
必要な数量は何か、どのように求めたかなどを対話を通して子どもたち同士が確認し合い、見通しをもって記述する学習を丁寧に進めています。最終的な答えが間違えた場合でも、どこまでの思考が正しく、どこを訂正すれば正答に導かれるのか、思考の過程を大切にしています。
- ・数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることに課題があります。
分子が1である分数は2年生で学習します。系統性を考慮し、子どもたちが概念や意味を十分に納得したり理解したりしているかを把握し、必要な力を補いながら学習を進めています。

理科

◎良好な点

- ・土の粒の大きさによって水のしみこみ方が違うことや、花の受粉のしくみや種子の発芽条件など、基本的な知識が身についています。

身近な自然や科学の現象に対し、疑問をもち、予想を立てて実験をし、その結果を考察する思考の過程を大切に学習の成果が表れています。

- ・実験の結果を基に結論を導いた理由を表現する力がついています。

実験結果から考えたことを「～だから～だ（と考える）」のように、理科用語を正しく使って表現することを意識した学習をしています。

▲課題として

- ・理科でよく用いられる金属（鉄・銅・アルミニウム）について、その性質の違いについての理解が十分ではありません。

磁石に引き付けられるか、電気を通すかの実験をする際、磁石にくっついたことや豆電球が光ったことなど、現象結果が印象として残りやすくなってしまいます。実験の結果から物質の性質をまとめ、そのような性質だから身の回りの〇〇はこの素材でできているなど、関連付けることで理解を深めていきます。

- ・2つの実験における条件の差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし表現することに課題があります。

差異点や共通点に気付く力は身につけていますが、そこから新たな問題として表現することが課題です。教師から「～を調べよう」と問題設定をするのではなく、子どもの思考に沿って自然と問題が出てくる、それを子どもが表現する授業展開を大切にしていきます。

学習・生活の様子

◎良好な点

- ・自分にはよいところがあり、そのよさを先生や友達から認められていると感じている児童が多いです。また、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童も多いです。

昨年度から取り組んでいるポジティブ教育のスキルトレーニングやピアサポート活動によって、自分も友達も大切にしたり互いを認め合ったりしています。授業や活動の中で、自分と違う意見に出会ったときには友好的にとらえ、考えや活動をよりよくするのに役立つと考えることができています。

- ・タブレットを活用した学習が定着し、タブレットを用いて文章を作成したり、情報を収集したり、自分のペースに合わせて学習を進めたりと、効果的に活用することができている児童が多いです。

タブレットを用いることで、学習内容がよく分かり、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると答えた児童の割合も高いです。

▲課題として

- ・昨年同様、学校の授業時間以外に、勉強をしたり読書をしたりする時間がとても少ないです。

学校が、以前のように宿題を多く課すという指導スタイルから、子ども自身が自分の課題や目標を見つめ自ら学習内容を決めて取り組むスタイルに変わってきた背景もあります。このような自律的な学習の定着に向けて、子どもたちが取り組みたいと意欲がわく課題設定や支援をしていきます。